

学校概要

創立 47 周年	学校長 和泉良司	副校長 金子京子	学期 2 学期制	児童・生徒数 1010 人
学級数 一般級: 30 個別支援級: 4		主な関係校: 十日市場中学校		

学校教育目標

互いに思いやり、人や地域とかかわり合いながら、進んで学び、高め合う子
 ○興味と関心を広げ、積極的に学び続ける子どもを育てます。(知)
 ○他者を思いやり、善悪の判断がきちんとできる子どもを育てます。(徳)
 ○自他の生命を大切にすると子どもを育てます。(体)
 ○社会の一員として、自分の役割を進んで果たすことができる子どもを育てます。(公)
 ○様々な人やものとかかわり合いを通じて、社会の視野を広げる子どもを育てます。(開)

学校の特徴

- 里山、川、田んぼなどの豊かな自然が身近にあり、各教科等の学習に活用できる。
- 保護者・地域とのつながりは強く、学校教育ボランティアなどの活動にも協力的である。
- 経験が浅い職員が多いが、授業力・指導力向上に熱心に取り組んでいる。
- 学力学習状況調査の結果を見ると、より一層基礎・基本の定着に取り組む必要がある。
- 基本的な生活習慣や学習習慣の育成が必要な児童もみられる。

学校経営中期取組目標

○誰もが日々の学校生活に期待感をもち、楽しくなるような学校づくりを進めます。
 ○組織として学校のチーム力を発揮し、活力と魅力にあふれた学校づくりを進めます。
 ○全職員が主体的に学校運営に参画し、創意工夫を生かした教育活動を実践します。
 ○地域連携を進め、学校ボランティア事務局と共に開かれた学校作りを目指します。
 ○ESD(持続可能な開発のための教育)を本校学校経営の中核ととらえ、カリキュラムマネジメントを進めます。

小中一貫教育の取組

十日市場中	ブロック	十日市場中学校・新治小学校・十日市場小学校・三保小学校
9年間で育てる子ども像	○自他を尊重しながら、地域や人との関わりの中で、自ら進んで学び、積極的に社会に貢献する子ども	
自校の具体的取組	・小中学校の接続を意識したカリキュラムマネジメントを進める。 ・教務主任会や専任会等で相互に情報を発信し、義務教育9年間の発達段階を考慮した児童生徒指導のあり方の共通理解を図る。 ・授業体験、部活動体験、職場体験等、児童生徒の交流を積極的に推進する。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力 担当 学力向上・学習評価委員会	基礎・基本の定着を重視し、児童一人ひとりの個性等に応じたきめ細かな指導を行い、子どもが自ら学び考える力を身につけるようにする。	①週3回の朝及び昼の学習時間帯を活用し、国語・算数の基礎的な技能の習得を図る。 ②学力・学習状況調査等を活用し実態を把握し、個に応じた指導を進める。 ③学校と家庭が連携して家庭学習に取り組めるようにし、基礎・基本の定着を図る。
豊かな心 担当 人権・豊かな心委員会	道徳教育の充実、体験活動や自主的活動の活性化を図り、家庭・地域との連携の深化を進めることで、規範意識や命を大切にし人を思いやる心を育てる。	①日常の道徳教育と「特別の教科 道徳」との関連を図るとともに、「特別の教科 道徳」の授業公開を行い、保護者や地域と連携して道徳性の育成を図る。②ペア学年集会やペア学級交流等の異学年交流を計画的に取り入れ、互いに高め合えるようにする。 ③祭などの地域行事や宿泊学習や校外学習など、体験を伴う活動を通して、協力していこうとする心情を育てる。
健やかな体 担当 体育部・教務部	体育授業における体力づくり運動や各種の体育的行事、保護者や地域と連携した健康教育の推進を通じて、児童の体の健やかな成長を図る。	①長縄集会(年2回)・マラソン大会を行ったり、運動会に中距離走を取り入れるなど、友達と協力して運動に取り組む姿勢を育み、持続する力や巧みな動きの向上を図る。 ②地区のウォークラリーやロードレースなどのスポーツイベントを学校と地域が連携して行うなど、児童が運動の楽しさや喜びを実感できるような機会の充実を図る。
教育課程 担当 重点研推進委員会	持続可能な社会づくりを担う児童の育成を目指し、環境やキャリアなどの教育課題をクロスカリキュラムにより整理し、全教科等において授業実践を進める。	①授業研究・校内研修等を充実させる教育課程の整備及びESD(持続可能な開発のための教育)を中心としたカリキュラムマネジメントを継続的に進める。 ②「特別の教科 道徳」、総合的な学習の時間のカリキュラム整備を進める。 ③年間9回の授業研究を行い、授業公開・協議会を通して、授業力・指導力の向上に努める。
児童生徒指導 いじめへの対応 担当 児童指導委員会 いじめ防止委員会	全教職員が指導方針を共通理解し、全児童を指導していく。児童一人ひとりが受け入れられていると実感できる受容的な環境をつくり、安心して学校生活を送れるようにする。	①「スタンダード」「児童の約束」等学校のきまりを全職員で共通理解し指導にあたる。 ②校長をリーダーとし、児童支援専任を中心に、担任、学年等チームによる支援を進める。 ③学年研や職員会議で情報の共有を図ることはもちろん、日常的に児童の様子について職員間で伝え合うようにする。 ④「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を授業や学校行事の場面で活用する。
安全管理 地域連携 担当 保健・安全委員会・教務部	保護者や地域と連携し、地域のよさを生かす学習に取り組む。また、大規模校として事件・事故及び災害発生時への安全管理が適切に実施できるようにする。	①土曜授業を活用して保護者・地域と協働した避難訓練を行ったり、地域の見守り隊や保護者の見守りボランティアと連携して児童の登下校指導を行ったりする。 ②田んぼ、川、森など、地域のよさを生かす学習に取り組み、地域行事に児童、職員が積極的に参加する。 ③学校運営協議会とともに学校運営の改善を進め、よりよい学校づくりを進める。
特別支援教育 担当 児童指導・特別支援委員会	全教職員が特別支援教育について理解を深め、児童の実態を把握し、全教職員の共通理解の下、学校全体として支援を行う。	①個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し、保護者と共有し指導を充実させる。 ②担任間の打ち合わせを積極的に行い、個別支援学級と一般学級の子ども同士の交流及び共同学習を実施する。 ③校内委員会で情報を共有するなど、特別支援教育コーディネーターを中心に校内体制を整え、一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実を図る。
人材育成・組織運営 担当 教務部	授業研究会や研修等あらゆる機会を利用して授業力、指導力の向上を図り、中長期的な視野に立った人材配置で組織力の向上と人材育成に努める。	①メンターチーム及びフットリーダーは各の業務を通して、そのキャリアステージに応じた資質・能力を身につける。 ②校内での実技、人権、特別支援等の研修を計画的に進める。 ③学校評価を年2回行い、全職員が自己点検自己評価に取り組み、責任を持って学校経営に参加できるようにする。 ④会議を精選し、各部署の連携のもと効率のよい組織運営に努める。